

# デジタル・ガーデンが目指す作品のクオリティアップ のためにはmetaSANが必要不可欠でした。

～ AutodeskとFinal Cut Proクロスアプリケーション環境でのインフラ構築 ～

metaSAN

ユーザー事例

株式会社デジタル・ガーデン 様

metaSAN

## 株式会社デジタル・ガーデンについて

株式会社デジタル・ガーデンは、1998年に設立されたTV早い段階からSoftimage XSIやMayaなどのCG制作に取り組み、顧客のニーズに合わせて編集とCGをワンストップで請け負えることが強みと語るCM中心とした映像編集・MA、合成やCG制作を主体としたポストプロダクション。村松氏の言葉通り、クオリティの高い数々の作品を手掛けています。2008年にはカラーグレーディングで国際的に有名なDI Post Production "Company3"や「パイレーツ・オブ・カリビアン」のVFXを担当したVFX Post Production "Method Studios"と業務提携し、スタッフ交流や将来の映画進出も視野に入れ、3社間では国内で唯一、Remote Sessionができる「リモートテレシネ」を備えるなど、より高品質な作品制作をめざしています。

常に時代の一步先をいく取り組みにチャレンジしてきたデジタル・ガーデン様が2010年8月の新スタジオ構築に合わせて、8Gbps対応SANシステム「metaSAN」と「Autodesk smoke for mac」を導入。metaSANシステムは8Gbpsのファイバーチャネルネットワークをインフラとし、4台のオフライン用途のMacProが16TBのセンターストレージを共有し、ファイルベースのニーズに即したシステムを構築しています。



Production Service Dept.  
Chief Technical Manager 村松 武様

## 導入の経緯

デジタル・ガーデン様では、オンラインの編集システムとしてAutodesk Inferno on Linuxが1式、Flame on Linuxが6式の計7台のAutodeskシステムと、オフラインとしてApple Final Cut Proをメインとした編集環境を構築しています。

「システム検討のきっかけはCM制作がSDからHDに移行したことと、EOS 5Dなどのデジタルカメラでの撮影データが飛躍的に増え、オフライン作業での素材そのもののデータ容量が増大したことです。」(村松様)

オンラインではある程度データが選別されますが、オフラインは撮影データそのものを扱うため、データ容量は増大する一方でした。データ容量が増えたことにより、ネットワーク上でのオフライン端末間のデータのやり取りやバックアップ・アーカイブに負荷が発生。そのため、社内でのデータのやり取りは外付けHDDへコピーしてのやり取りになり、DISKの移動によるトラブルもあったようです。

「LAN環境ではファイルベースに対応が徐々に厳しくなってきました。10Gbpsの検討も頭にありましたが、現実的なシステム構築を考えるとまだ早いと判断し、すでに確立された技術であるファイバーチャネル環境でのSAN構築を考え始めました。」(村松様)

また、新しい取り組みとしてAutodeskから発表された「smoke for mac」についても検討を開始しました。「今までオフラインはずっとFinal Cut Proでやってきました。smoke for macはソフトウェアなので、Final Cut Proのハードウェアに共存できます。また、Flameなどの他Autodeskシステムとの連携を考えるとオンライン・オフライン両立するシステムとしてsmoke for macが最適であろうと考えました。」(村松様)

## 導入のポイント

選定候補にはmetaSAN以外にApple Xsanもあがりましたがデジタル・ガーデン様はなぜmetaSANシステムを採用したのでしょうか。

「metaSANは複数のOS/複数のアプリケーションに対応していたのが大きいですね。あと、検討段階でAutodesk対応がアナウンスされたのもポイントになりました。このようなクロスアプリケーションの環境で、VGIと併せてAutodesk代理店であるシリコンスタジオが2社で共同提案をしてくれました。Final Cut ProやAdobeに強いVGIとAutodesk系に強いシリコンスタジオがタッグを組んで提案をしてくれたことは安心感がありましたね。今のクロスアプリケーションの時代には、ベンダー単独の提案もいいですが各ベンダーがそれぞれの強みを活かしてトータルで提案をするというの也需要とされているような気がします。」(村松様)

導入当初はMacOSXがメインになりますが、それ以外にWindowsやRed Hat Linuxのマシンもあり、アプリケーションも多岐にわたります。近年のインプット・アウトプットの多様化に伴い、Autodeskに加えて様々なアプリケーションを稼働させる必要があったとのこと。metaSANはオープンシステムであるため、クロスプラットフォーム、クロスアプリケーション環境でのSAN構築でも問題ありません。また、AutodeskシステムがmetaSANクライアント化に対応したことにより、編集システムとしてより付加価値の高いsmoke for macをSAN環境に取り入れることが可能になったようです。

## 今後のシステム展望

「8Gbps環境にいち早く対応したのも選定の理由になりました。最初の提案段階では4Gbpsだったんですが、途中で最新の8Gbpsに対応したとのことで、8GbpsのSANにシステム内容がアップされました。このように最新のテクノロジーを柔軟に取り入れられるのはオープンなmetaSANならではのですね。」(村松様)

「他にも色々ありますが、やはり導入価格が安く抑えられたのもポイントが高いです。SANはとにかく高い、というイメージがあったんですが、metaSANの場合はワークフローに合わせてハードウェア構成を柔軟に選択できるので、予算や規模に見合ったコストパフォーマンスの高いシステムですね。」(村松様)

## 導入、その効果

「撮影後のデータなども、とりあえずセンターサーバに入れてしまえば、後はどの編集室からでもアクセス出来るので、どうにでもなっちゃいます。今、4台のMacProがmetaSAN化されていますが、2Fと3Fにフロアがわかれています。通常であれば2Fと3Fで編集室の移動をするのにデータコピーで人が行ったり来たりするのですが、それが不要なので物理的な移動のコストもかなり圧縮されました。」(村松様)

metaSAN導入前は、各編集室のオフラインマシンに1台ずつストレージを接続して作業をしていたので、編集中/編集終了後などの編集室の移動に関してデータコピーの時間が発生していましたが、metaSAN化したことで撮影素材含むデータ全てがSANのセンターストレージに集約されるため、編集室を移動する際のデータコピーの時間が一切必要なくなったようです。これは、エディターの作業負担の軽減だけでなく、ポスプロとして部屋を使って頂く顧客にとってもメリットが多いとのこと。

「今まではデータ移動のためにお客様に待つ頂く待ち時間があつたのですが、metaSAN導入後はお客様を待たせることがなくなりました。お客様からもかなり評判がいいです。ただ、エディターはデータコピー中の待ち時間で休めなくなっちゃったので大変でしょうけどね(笑)」(村松様)

そして最大のメリットは、待ち時間がなくなったことで生み出された時間を、作品のクオリティアップに充てられるようになったこと。

「Final Cut Proの浸透で、どこのスタジオでもある程度のレベルの作品を作れるようになってきました。だからFinal Cut Proの制作だけではお客様に選んでもらえない。よりクオリティが求められるようになってきている。それに対応するにはエディターにクオリティアップのための時間をつくるのが大事なんです。」(村松様)

また、smoke for macによる制作環境もクオリティアップに一役買っているようです。「Autodeskのよさは皆分かっています。smoke for macはFinal Cut Proよりさらに上のクオリティを求めたいという顧客にぴったりのシステムです。」(村松様)

Final Cut Proかsmoke for macか、顧客のニーズや予算に合わせて柔軟な提案が出来るのも当社の強みになっていくでしょう

撮影がフィルムからデジタルに移行し、撮影素材が今まで以上に増加してきました。これからは3D立体映像も増えてくる可能性もあり、もっと素材が増えてくるとなると撮影後のデータの移動、マシンへの取り込みなどの時間短縮が求められてきます。そこで考えなければならないのが、センターサーバに集約されたデータの管理方法です。デジタル・ガーデン様では、増え続けるSANストレージ内のデータ管理として映像制作マルチコンテンツ管理システム「thiiDa2(ティーダツー)」の導入を検討頂いています。

「thiiDa2ならアップロード操作もしやすいし、なにより各素材がデータベース化されてFLASHデータで低解像度プレビューが見られるのが大きい。ただ送るだけならFTPでもいいですが、thiiDa2ならレジューム機能がついていて、回線不具合で送れない場合も、回線が復活すれば自動で再送信してくれます。」(村松様)

デジタル・ガーデン様ではすでに「リモートテレシネ」で海外とのデータデリバリーは浸透してきています。この利便性を国内の協業他社とのデータデリバリーに活かすことで、さらに生産性の高いファイルベースのワークフローの構築が期待されています。

「他社とのサービスの差別化を図るためにも、次の展開を見据えた次世代のワークフローを構築する必要があると考えています。これからもVGIとシリコンスタジオのそれぞれの良さを活かした提案を期待しています。」(村松様)



metaSANセンターストレージ(16TB)



Smoke For MacとFinal Cut ProがインストールされたmetaSANクライアント